

学部等	学科等	①大学・大学院の設置理念		②教員養成に対する理念・構想（大学、大学院）	
		①学科・専攻の設置理念		②教員養成に対する理念・構想（学科、専攻）	
		③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等／免許校種ごと）			
		<p>念「①大学の設置理念」 念「②教員養成に対する理念・構想」</p>	<p>成蹊大学大学院は、成蹊学園建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与すること及び高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。</p>	<p>成蹊大学大学院においては、設置する博士前期課程の4研究科8専攻のすべてで専修免許状が取得できる教職課程を設置している。それぞれの研究科専攻の基礎となる大学学部等の課程では「広い視野を持ち、高度の専門的知識・技能、科学的研究精神を身につけ、理論的考察力においても実践的教育活動においても、生徒・保護者ばかりでなく、日本国民や世界の人々の期待に応じて活躍できる教師を育成する」目的で教職課程を設置している。大学院研究科の課程においては、これに加えて、学部と大学院の継続性を考慮した教育の実践と教育研究過程においての様々な経験を通し、専門分野の深い知識と、隣接分野、学際的な分野の学修により得ることを目標としている。これにより、現代の知識基盤社会を支える広い知的素養を兼ね備えることで、教育者としての広い視野と確固たる倫理観をもち、生徒をしっかり指導・支援できる能力を培う教員の育成を目指している。これらの能力・知識・技能・使命感と教職の力量を兼ね備え、教員として父母や生徒に柔軟に対応でき、日本国内のみならず国際社会に通用する人材の養成を構想している。</p>	
文学研究科	日本文学専攻	<p>学科等の「①設置理念」「②教員養成に対する理念・構想」</p> <p>■文学研究科の理念、目的 本研究科は、言語、文学、歴史、思想等に関わる伝統文化を継承しながら、新たな知見を生み出して社会に寄与することを基本理念としている。教育研究上の目的は人間と社会に対する広範な理解および探究心と、高度な専門知識と能力を持った専門職業人や広く深い専門的素養を身につけた人材、ならびに問題を発見し追究する能力に富み、学問的創造性を発揮しうる優れた学術研究者の育成である。</p> <p>■日本文学専攻の教育研究上の目的（人材育成方針） ア 研究コース 日本語学又は日本文学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする基礎的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。 イ 総合コース 日本語学及び日本文学における、広い専門的知識を備えた高度な専門職業人及び広く高度な知的素養を備えた人材の養成を目的とする。</p> <p>■ディプロマ・ポリシー【略】</p>	<p>日本文学専攻では、研究コースと総合コースの二つのコースを置いている。 「研究コース」は、日本文学又は日本語学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする基礎的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。この目的のために、講義や演習を通して研究者としての基礎的な知識を身につけながら、指導教授の助言のもとに自らの研究を創造的に進めていくことができるようなカリキュラムが作られている。専門的で創造的な研究は、同時にそれを社会に対して発信して行くことも求められよう。中学校や高等学校における教育は、そのような研究と発信の中心的な場の一つである。 「総合コース」は、日本文学及び日本語学における、広い専門的知識を備えた高度な専門職業人及び広く高度な知的素養を備えた人材の養成を目的とする。この目的のために、講義科目に力点を置いて広い専門的知識を身につけつつ、指導教授の助言のもとに自らの研究を進めていくことができるようなカリキュラムとなっている。コースの目的において既に明らかのように、具体的には中学校や高等学校の教師をめざす人やレベルアップを目指す現職教員などのための教育を想定しており、その点からも教職課程を設置することは必然性を持つと言えるだろう。 「研究コース」「総合コース」いずれも、その理念、目的に照らし、そこで育成を目指されている日本文学や日本語学についての専門的知識や研究能力を備えた人材は、日本語の能力を育成し、思考力や想像力を養い、国語を尊重する態度を育てる教育の場において切実に要請されようし、またそのような人材にとって、教育はその能力を生かすにもっとも相応しい場であろう。以上、教職課程を設置するゆえんである。</p>		
		<p>学科等の「③認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等）」</p> <p>○中学校専修免許状（国語） 日本文学専攻では、研究コースと総合コースの二つのコースを置いている。 「研究コース」は、日本文学又は日本語学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする基礎的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。この目的のために、講義や演習を通して研究者としての基礎的な知識を身につけながら、指導教授の助言のもとに自らの研究を創造的に進めていくことができるようなカリキュラムが作られている。専門的で創造的な研究は、同時にそれを社会に対して発信して行くことも求められよう。中学校における教育は、そのような研究と発信の中心的な場の一つであるとともに、このコースで得られた研究に対する取り組み方は中学校での国語教育においてより良い授業を作り上げていく際にも発揮されるはずである。 「総合コース」は、日本文学及び日本語学における、広い専門的知識を備えた高度な専門職業人及び広く高度な知的素養を備えた人材の養成を目的とする。この目的のために、講義科目に力点を置いて広い専門的知識を身につけつつ、指導教授の助言のもとに自らの研究を進めていくことができるようなカリキュラムとなっている。コースの目的において既に明らかのように、具体的には中学校の教師をめざす人やレベルアップを目指す現職教員などのための教育を想定しており、その点からも教職課程を設置することは必然性を持つと言えるだろう。 「研究コース」「総合コース」いずれも、その理念、目的に照らし、そこで育成を目指されている日本文学や日本語学についての専門的知識や研究能力を備えた人材は、日本語の能力を育成し、思考力や想像力を養い、国語を尊重する態度を育てる教育の場において切実に要請されようし、またそのような人材にとって、教育はその能力を生かすにもっとも相応しい場であろう。以上、教職課程を設置するゆえんである。</p> <p>○高等学校専修免許状（国語） 日本文学専攻では、研究コースと総合コースの二つのコースを置いている。 「研究コース」は、日本文学又は日本語学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする基礎的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。この目的のために、講義や演習を通して研究者としての基礎的な知識を身につけながら、指導教授の助言のもとに自らの研究を創造的に進めていくことができるようなカリキュラムが作られている。専門的で創造的な研究は、同時にそれを社会に対して発信して行くことも求められよう。高等学校における教育は、そのような研究と発信の中心的な場の一つである。 「総合コース」は、日本文学及び日本語学における、広い専門的知識を備えた高度な専門職業人及び広く高度な知的素養を備えた人材の養成を目的とする。この目的のために、講義科目に力点を置いて広い専門的知識を身につけつつ、指導教授の助言のもとに自らの研究を進めていくことができるようなカリキュラムとなっている。コースの目的において既に明らかのように、具体的には高等学校の教師をめざす人やレベルアップを目指す現職教員などのための教育を想定して特に専門科目に関する知見を身につけることができるカリキュラムとなっており、その点からも教職課程を設置することは必然性を持つと言えるだろう。 「研究コース」「総合コース」いずれも、その理念、目的に照らし、そこで育成を目指されている日本文学や日本語学についての専門的知識や研究能力を備えた人材は、日本語の能力を育成し、思考力や想像力を養い、国語を尊重する態度を育てる教育の場において切実に要請されようし、またそのような人材にとって、教育はその能力を生かすにもっとも相応しい場であろう。以上、教職課程を設置するゆえんである。</p>			

3. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜文学研究科日本文学専攻＞（認定課程：中専修免（国語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>前期では、「古典文学共通講義Ⅰ」「近代文学共通講義Ⅰ」「日本語学共通講義Ⅰ」「文献資料共通講義Ⅰ」「学際分野特殊研究」の共通講義科目と、「古代文学研究」「中世文学研究」「近世文学研究」「近代文学研究」「日本語学研究」「古代文学演習」「中世文学演習」「近世文学演習」「近代文学演習」「日本語学演習」の個別研究科目が置かれているが、特に中学、高校の教師をめざす総合コースでは、研究コースに比べて多くの共通講義科目の履修が課せられており、早い段階で修得するなど、計画的な履修をし、教科の専門知識の肉付けを着実に深めていくことが目標となる。</p> <p>また、「論文演習Ⅰ」または「課題研究Ⅰ」が必修とされており、指導教授と相談のもと、修士論文や課題研究のための方針を決め、調査を始めることが目標となる。</p>
	後期	<p>後期では、「古典文学共通講義Ⅱ」「近代文学共通講義Ⅱ」「日本語学共通講義Ⅱ」「文献資料共通講義Ⅱ」「学際分野特殊研究」の共通講義科目と、「古代文学研究」「中世文学研究」「近世文学研究」「近代文学研究」「日本語学研究」「古代文学演習」「中世文学演習」「近世文学演習」「近代文学演習」「日本語学演習」の個別研究科目が置かれ、前期に引き続いて計画的な履修をし、教科の専門知識の肉付けを着実に深めていくことが目標となる。</p> <p>また前期に引き続き「論文演習Ⅰ」または「課題研究Ⅰ」を通して自らの研究を一步ずつ進めることが中心的な目標となる。さらに、カリキュラム外の企画として日本文学専攻および本専攻の基礎学科である日本文学科では研究、評論を奨励する「櫻賞」を設置しており、1年次生には論考の提出が強く求められている。この取り組みもまた、修士論文や課題研究をまとめるという最終目標のための一階梯と位置づけられている。</p>
2年次	前期	<p>引き続き1年次に記した科目を履修し、専門の知識や理解を深めることが目標である。同時に必修科目とされる「論文演習Ⅱ」または「課題研究Ⅱ」を通して自らの研究を進め、前期の終了時に開かれる修士論文や課題研究の中間発表を兼ねた研究集会により、大学院生や学部学生および一般に開かれた場において、研究の蓄積、独自の立論と検証、そして構成と発表が試されることとなり、これを遂行し、修士論文や課題研究への道筋を見据えることが主要な目標である。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、必要に応じて科目の履修を進めるとともに、指導教授の助言を求めつつ、修士論文や課題研究を完成させ、学習の集大成とすることが最大の目標である。</p>

3. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜文学研究科日本文学専攻＞（認定課程：高専修免（国語））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>前期では、「古典文学共通講義Ⅰ」「近代文学共通講義Ⅰ」「日本語学共通講義Ⅰ」「文献資料共通講義Ⅰ」「学際分野特殊研究」の共通講義科目と、「古代文学研究」「中世文学研究」「近世文学研究」「近代文学研究」「日本語学研究」「古代文学演習」「中世文学演習」「近世文学演習」「近代文学演習」「日本語学演習」の個別研究科目が置かれているが、特に中学、高校の教師をめざす総合コースでは、研究コースに比べて多くの共通講義科目の履修が課せられており、早い段階で修得するなど、計画的な履修をし、教科の専門知識の肉付けを着実に深めていくことが目標となる。</p> <p>また、「論文演習Ⅰ」または「課題研究Ⅰ」が必修とされており、指導教授と相談のもと、修士論文や課題研究のための方針を決め、調査を始めることが目標となる。</p>
	後期	<p>後期では、「古典文学共通講義Ⅱ」「近代文学共通講義Ⅱ」「日本語学共通講義Ⅱ」「文献資料共通講義Ⅱ」「学際分野特殊研究」の共通講義科目と、「古代文学研究」「中世文学研究」「近世文学研究」「近代文学研究」「日本語学研究」「古代文学演習」「中世文学演習」「近世文学演習」「近代文学演習」「日本語学演習」の個別研究科目が置かれ、前期に引き続いて計画的な履修をし、教科の専門知識の肉付けを着実に深めていくことが目標となる。</p> <p>また前期に引き続き「論文演習Ⅰ」または「課題研究Ⅰ」を通して自らの研究を一步步進めることが中心的な目標となる。さらに、カリキュラム外の企画として日本文学専攻および本専攻の基礎学科である日本文学科では研究、評論を奨励する「櫻賞」を設置しており、1年次生には論考の提出が強く求められている。この取り組みもまた、修士論文や課題研究をまとめるという最終目標のための一階梯と位置づけられている。</p>
2年次	前期	<p>引き続き1年次に記した科目を履修し、専門の知識や理解を深めることが目標である。同時に必修科目とされる「論文演習Ⅱ」または「課題研究Ⅱ」を通して自らの研究を進め、前期の終了時に開かれる修士論文や課題研究の中間発表を兼ねた研究集会により、大学院生や学部学生および一般に開かれた場において、研究の蓄積、独自の立論と検証、そして構成と発表が試されることとなり、これを遂行し、修士論文や課題研究への道筋を見据えることが主要な目標である。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、必要に応じて科目の履修を進めるとともに、指導教授の助言を求めつつ、修士論文や課題研究を完成させ、学習の集大成とすることが最大の目標である。</p>